

第2章 医療部門

1 子ども心身医療センター

(1) 概要・診療体制

ア 概要

子ども心身医療センターは、札幌市子ども発達支援総合センター内にある診療所で、児童精神科、小児科、整形外科、眼科、耳鼻咽喉科の5科があり、原則18歳未満の子どもを対象に心理治療やリハビリテーション（理学療法・作業療法・言語聴覚療法）、グループセラピー、保育、家族支援、各種検査・相談等を行っている。

(ア) 児童精神科

概ね小学生から中高生までの、発達や精神症状、行動上の問題等についての診療を行っている。必要に応じて、各種心理検査、採血等の検査、精神療法、環境調整、薬物療法を行っている。心理士、作業療法士、言語聴覚士、ケースワーカー、看護師などが協働して診療にあたっている。

(イ) 小児科

乳幼児期からの子どもを対象に、ことばや対人面の発達、器用さや粗大運動の発達、行動上の心配事などについての診療を行っている。必要に応じて、血液検査や脳波など生理学的な検査、心理発達検査を行い、環境調整や子どもとの関わり方、薬物療法などについての相談を行っている。理学療法士・作業療法士・言語聴覚士・保育士・心理士・ケースワーカー・看護師などが協働して診療を行っている。

(ウ) 整形外科

運動障がいや姿勢に異常がある子どもを対象に診療を行っている。靴や車いす等の補装具に関する相談と処方も行っている。

(エ) 眼科

心身の発達に遅れのある子どもで、物の見え方や斜視の心配のある子どもを対象に診療を行っている。

(オ) 耳鼻咽喉科

心身の発達に遅れのある子どもで、主に耳の聞こえが心配な子どもを対象に診療を行っている。

(カ) リハビリテーション

発達の遅れや心身に障がいのある子どもを対象に理学療法、作業療法、言語聴覚療法、外来保育を行っている。

(キ) 心理

医師の指示のもと、心理治療、心理検査などを行っている。更に関係機関との連携も必要に応じ行っている。

(ク) グループセラピー

同年代のメンバーやスタッフと一緒に様々な活動を行っている。『安心して過ごせる場所がほしい』『同年代の友だちとかわりたい』など、一人ひとりの希望や目標を大事にしている。

イ 診療体制（令和7年5月1日現在）

- | | | |
|-----------|--------------|--------------------|
| (ア) 児童精神科 | 医師数2名（非常勤5名） | |
| (イ) 小児科 | 医師数4名（非常勤1名） | |
| (ウ) 整形外科 | 医師数0名（非常勤2名） | （うち1名は発達医療センターと兼務） |
| (エ) 眼科 | 医師数0名（非常勤1名） | |
| (オ) 耳鼻咽喉科 | 医師数0名（非常勤1名） | |

ウ 診療件数

(単位：人)

区 分	児童精神科	小 児 科	整形外科	眼 科	耳鼻咽喉科	合 計
延べ患者数	7,707	11,882	472	7	18	20,086
実患者数	6,616	6,668	384	7	18	13,693
新患者数	134	303	44	1	3	485

エ 月別新患者数

(単位：人)

区 分	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
児童精神科	14	14	10	10	14	11	13	11	8	7	10	12	134
小 児 科	18	26	24	34	28	24	30	22	30	21	19	27	303
整形外科	6	2	7	5	1	6	3	3	6	0	3	2	44
眼 科	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	1
耳鼻咽喉科	1	0	0	0	1	0	0	1	0	0	0	0	3
合 計	39	42	41	49	44	41	46	37	44	28	32	42	485

(2) 児童精神科

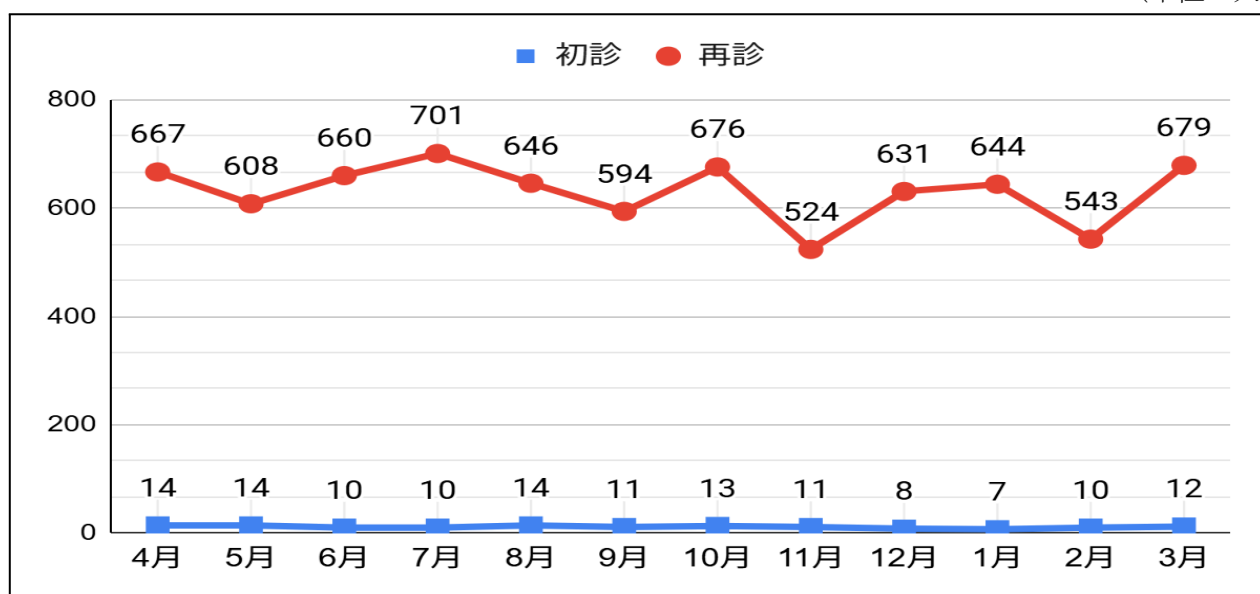
ア 月別患者数

(単位：人)

児童精神科	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
初診	14	14	10	10	14	11	13	11	8	7	10	12	134
再診	667	608	660	701	646	594	676	524	631	644	543	679	7,573
合計	681	622	670	711	660	605	689	535	639	651	553	691	7,707
実患者数	576	541	572	580	582	524	584	468	546	575	492	576	6,616

新患者数は年間134名で、新患者待機日数はおおむね4か月前後で推移している。

(単位：人)



イ 初診患者の性別・年齢別・居住区別統計

(ア) 年齢別・年齢区分別

(単位：人)

年齢	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10
件数	2	0	1	3	5	11	18	13	15	19
割合	1.5%	0.0%	0.7%	2.2%	3.7%	8.2%	13.4%	9.7%	11.2%	14.2%

年齢	11	12	13	14	15	20～	合計
件数	15	9	12	8	2	1	134
割合	11.2%	6.7%	9.0%	6.0%	1.5%	0.7%	100%

(イ) 性別

(単位：人)

性 別	男	女	合 計
人 数	81	53	134
割 合	60.4%	39.6%	100%

(ウ) 居住市町村別

(単位：人)

市町村名	札幌市	空知支庁	釧路支庁	合計
人数	131	2	1	134
割合	97.8%	1.5%	0.7%	100%

(エ) 居住区別

(単位：人)

区名	中央	北	東	白石	厚別	豊平	清田	南	西	手稲	市外	合計
人数	12	8	13	16	4	49	13	10	6	0	3	134
割合	9.0%	6.0%	9.7%	11.9%	3.0%	36.6%	9.7%	7.5%	4.5%	0%	2.2%	100%

居住市町村別では、97.8%が市内在住で、区別では豊平区が全体の3割以上を占めている。

ウ 初診時統計

(ア) 紹介元別一覧

(単位：人)

区 分	紹 介 元	人 数	割 合
ちくたく内施設	入所施設（さぼこ）	1	0.7%
医療機関	児童精神科	13	9.7%
	精神科	4	3.0%
	小児科（一般）	10	7.5%
	〈 小 計 〉	27	20.1%
行政機関	保健センター	1	0.7%
	児童相談所	2	1.5%
	〈 小 計 〉	3	2.2%
教育機関	小学校・スクールカウンセラー	4	3.0%
	中学校・スクールカウンセラー	2	1.5%
	〈 小 計 〉	6	4.5%
その他	兄弟姉妹ケース	16	11.9%
紹介状なし		81	60.4%
合 計		134	100%

紹介元では、医療機関からの紹介が20.1%と最も多く、その中でも児童精神科からの受診が約半数を占めている。

60.4%が紹介状なしで受診されているが、実際は他機関から勧められて受診されているケースが大半である。教育機関からの紹介もあり、医師が教員・保育士等と情報交換を行う機会も増えている。

(イ) 初診時主訴別統計

(単位：人)

初 診 時 主 訴	人 数	割 合
多動、衝動性、不注意などのAD／HD症状を呈していた群	26	19.4%
不登校が問題の中心となっていた群	18	13.4%
学習の問題を訴えていた群	15	11.2%
パニックやかんしゃくが問題であった群	14	10.4%
コミュニケーションや対人関係などの社会性の問題を主訴に受診した群	14	10.4%
乳幼児期のことばの遅れ、発達の心配が問題であった群	7	5.2%
粗暴行為が問題の中心となっていた群	6	4.5%
不安症状により受診した群	5	3.7%
運動の問題が中心となっていた群	4	3.0%
睡眠の問題が中心となっていた群	2	1.5%
抑うつ症状により受診した群	2	1.5%
自傷・自殺関連行動が中心となっていた群	2	1.5%
ネット・ゲーム依存が問題の中心となっていた群	2	1.5%
いじめを受けていた群	1	0.7%
身体疾患の治療をすでにうけていたが改善なく、受診時に身体症状を訴えていた群	1	0.7%
チック症状により受診した群	1	0.7%
強迫症状により受診した群	1	0.7%
その他	13	9.7%
合 計	134	100%

多動、衝動性、不注意などのAD／HD症状を呈していた群が19.4%で最も多く、次いで不登校が問題の中心となっていた群が13.4%、学習の問題を訴えていた群が11.2%となっており、この3項目で約4割を占めている。

(ウ) 初診時診断別統計 1

(単位：件)

初診時ICD診断（複数診断）	第 1 病 名	第 2 病 名	第 3 病 名	合 計	割 合
F00-F09 症状性を含む器質性精神障害	0	1	0	1	0.7%
F30-F39 気分〈感情〉障害	2	1	0	3	2.2%
F41 その他の不安障害	2	5	2	9	6.7%
F43 重度ストレスへの反応及び適応障害	8	4	0	12	9.0%
F45 身体表現性障害	1	0	0	1	0.7%
F50 摂食障害	1	0	1	2	1.5%
F51 非器質性睡眠障害	2	1	1	4	3.0%
F70-F79 知的障害〈精神遅滞〉	3	10	1	14	10.4%
F80 会話及び言語の特異的発達障害	0	1	0	1	0.7%
F81 学習能力の特異的発達障害	8	8	8	24	17.9%
F82 運動機能の特異的発達障害	2	3	3	8	6.0%
F84 広汎性発達障害	86	17	3	106	79.1%
F90 多動性障害	11	26	1	38	28.4%
F91 素行障害	2	2	0	4	3.0%
F92 行為及び情緒の混合性障害	1	1	0	2	1.5%
F93 小児期に特異的に発症する情緒障害	2	4	2	8	6.0%
F94 小児期及び青年期に特異的に発症する社会的機能の障害	1	4	2	7	5.2%
F95 チック障害	1	0	0	1	0.7%
精神科的問題なし	1	0	0	1	0.7%
合 計	134	88	24	246	

初診時に複数の診断名がついた患者が88名おり、うち24名は3つの診断名がついている。初診時の診断名では、広汎性発達障害が新患の79.1%についており最多で、続いて多動性障害(28.4%)、学習能力の特異的発達障害(17.9%)となっている。

(エ) 初診時診断別統計 2

(単位：件)

初診時DSM診断（複数診断）	第1病名	第2病名	第3病名	合計	割合
自閉スペクトラム症/自閉症スペクトラム障害	85	13	3	101	75.4%
注意欠如・多動症/注意欠如・多動性障害	12	25	1	38	28.4%
限局性学習症/限局性学習障害	7	11	7	25	18.7%
不安症群/不安障害群	3	12	2	17	12.7%
心的外傷およびストレス因関連障害群	11	3	1	15	11.2%
知的能力障害群	3	10	1	14	10.4%
運動症群/運動障害群	2	3	3	8	6.0%
コミュニケーション症群/コミュニケーション障害群	1	3	1	5	3.7%
秩序破壊的・衝動制御・素行障害	2	2	1	5	3.7%
睡眠-覚醒障害群	2	0	1	3	2.2%
抑うつ障害群	2	1	0	3	2.2%
食行動障害および摂食障害群	1	0	1	2	1.5%
チック症群/チック障害群	1	0	0	1	0.7%
身体症状症および関連症群	1	0	0	1	0.7%
他の神経発達症群/他の神経発達障害群	0	1	0	1	0.7%
精神科的問題なし	1	0	0	1	0.7%
その他	0	1	0	1	0.7%
合 計	134	85	22	241	

初診時の診断では、自閉スペクトラム症/自閉症スペクトラム障害の診断を受けている患者が75.4%であり、新患の大半を占めている。その他の診断では、注意欠如・多動症/注意欠如・多動性障害（28.4%）と限局性学習症/限局性学習障害（18.7%）が多くなっている。

エ その他

(ア) 医師の診察外業務

(単位：件)

月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
ケース会議・面談	0	3	4	8	3	4	5	5	5	2	4	2	45

ケース会議・面談は、施設など支援機関との会議や、学校の教諭等との面談の中で、相談を受け助言を行っている。

(イ) 文書作成

(単位：件)

診療情報 提供書	特児 診断書	自立支援 診断書	学校への 手紙	デイ 意見書	福祉手当 診断書	受診状況 診断書	その他
120	162	63	52	22	26	26	49

(3) 小児科

ア 月別患者数

(単位：人)

小児科	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
初診	18	26	24	34	28	24	30	22	30	21	19	27	303
再診	867	884	944	990	948	976	1,040	904	1,015	995	934	1,082	11,579
合計	885	910	968	1,024	976	1,000	1,070	926	1,045	1,016	953	1,109	11,882
実患者数	477	515	508	545	553	552	573	527	600	594	574	650	6,668

イ 新患の居住区分及び年齢

(単位：人)

区 分	0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	6～11歳	12歳～	合計	比率
中 央 区	1	3	6	3	6	5	4	0	28	9.2%
北 区	2	1	2	2	2	5	3	0	17	5.6%
東 区	1	5	2	0	4	1	1	1	15	5.0%
白 石 区	1	5	5	5	11	6	2	0	35	11.6%
厚 別 区	1	0	1	1	0	1	0	0	4	1.3%
豊 平 区	6	21	13	22	17	20	9	1	109	36.0%
清 田 区	4	5	0	5	1	2	0	0	17	5.6%
南 区	7	6	7	12	8	9	3	1	53	17.5%
西 区	1	2	3	5	3	3	2	0	19	6.3%
手 稲 区	0	0	0	0	1	0	0	0	1	0.3%
札幌市計	24	48	39	55	53	52	24	3	298	98.3%
市 外	0	0	2	0	1	1	1	0	5	1.7%
合 計	24	48	41	55	54	53	25	3	303	100%
比 率	7.9%	15.8%	13.5%	18.2%	17.8%	17.5%	8.3%	1.0%	100%	

近隣の豊平区、南区の新患数が約半数を占めている。年齢別では保健センターの健診からの紹介患者が多いため、4歳未満の新患数が全体の約6割を占めている。

また、令和5年度より就学前までの発達面の新患を受けるようになり、4歳から5歳児の受診が全体の約3割と増えている。

ウ 新患紹介元一覧

(単位：人)

区 分	紹 介 機 関 名	新患数	比率 (%)
札幌市保健センター	中央	1	33.3%
	北	2	
	東	1	
	白石	12	
	厚別	1	
	豊平	34	
	清田	11	
	南	34	
	西	5	
	手稲	0	
	〈 小 計 〉	101	
医 療 機 関	J C H O 北海道病院	12	20.1%
	北海道大学病院	9	
	札幌医科大学医学部附属病院	9	
	天使病院	7	
	北海道立子ども総合医療・療育センター	3	
	ときわ病院	3	
	市立札幌病院	3	
	N T T 病院	2	
	K K R 札幌医療センター	0	
	札幌市内病院（上記以外）	11	
	札幌市外病院/療育センター	2	
	〈 小 計 〉	61	
子ども心身医療センター内	児童精神科	2	1.3%
	整形外科	2	
	〈 小 計 〉	4	
関 係 機 関	札幌市内児童発達支援事業所	0	1.7%
	市外児童発達支援センター	5	
	〈 小 計 〉	5	
教 育 機 関	保育園	0	0.0%
	幼稚園	0	
	〈 小 計 〉	0	
そ の 他	親自身の判断（地域支援室経由）	115	43.6%
	兄弟姉妹ケース	17	
	〈 小 計 〉	132	
合 計		303	100%

保健センター・他の医療機関からの紹介が多い。

エ 初診時診断名

「発達遅滞・発達障がい」と「聴覚言語障がい」の患者数の割合が8割以上を占めている。

(単位：件)

分類区分／名称	病 名	新 患	小 計	比 率
脳 性 麻 痺	脳性麻痺	1	1	0.5%
脳・脊髄疾患後遺症	脳室内出血	1	2	0.7%
	低酸素性虚血性脳症	1		
神経・筋疾患	ディシェンヌ型筋ジストロフィー	2	2	0.7%
先 天 異 常	小頭症	1	7	2.3%
	クラインフェルター症候群	1		
	神経線維種症1型	1		
	ソトス症候群	1		
	先天性サイトメガロウイルス感染症	1		
	ピーターズ・プラス症候群	1		
	Malan症候群	1		
内分泌・代謝異常	偽性副甲状腺機能低下症	0	0	0.0%
染色体異常	ダウン症候群	3	7	2.3%
	その他の染色体異常	4		
骨・関節疾患	歩行障害	1	2	0.7%
	左癱性尖足	1		
発達遅滞・発達障がい	自閉スペクトラム症 (ASD)	77	234	77.2%
	運動発達遅滞	45		
	神経発達症	43		
	発達性協調運動症(DCD)	22		
	全般性発達遅滞	15		
	注意欠陥・多動症 (ADHD)	12		
	精神運動発達遅滞	5		
	不安症	5		
	知的能力障害群 (ID)	4		
	社会的コミュニケーション症(SCD)	3		
	場面緘黙	3		
聴覚言語障がい	言語発達遅滞 (表出性)	43	46	15.2%
	吃音	2		
	構音障がい	1		
その他	早産 低出生・超低出生児	1	2	0.7%
	睡眠障害	1		
合 計		303	303	100%

オ その他

(ア) 医師の診察外業務

(単位：件)

月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
研修会講師												1	1
ケース会議 (心身医療課・通園 内)			2	1			1	1	1	2	1	1	10
ケース会議 (外部ZOOM含む)								2				1	3
外部の会議 (教育委員会等)						1		1	1	1			4

(イ) 文書作成

(単位：件)

診療情 報提供 書	特児診 断書	身体障 がい者 手帳	学校・保 育園・幼 稚園・デ イへの手 紙	デイ意 見書	福祉手 当診断 書	加配診 断書	産科医 療補償 制度	その他	合計
145	68	22	71	45	29	27	8	29	444

(4) 整形外科

ア 月別患者数

(単位：人)

整形外科	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
初診	6	2	7	5	1	6	3	3	6	0	3	2	44
再診	36	37	41	47	42	25	43	34	34	21	22	45	427
合計	42	39	48	52	43	31	46	37	40	21	25	47	471
実患者数	33	35	36	40	34	25	38	31	36	17	23	36	384

イ 新患の居住区分及び年齢

(単位：人)

区 分	0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	6～11歳	12歳～	合計	比率
中央区	0	1	1	0	1	0	2	0	5	11.4%
北 区	0	0	1	0	0	0	0	0	1	2.3%
東 区	0	0	2	0	0	0	0	0	2	4.5%
白石区	0	0	2	0	1	0	1	0	4	1.3%
厚別区	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0.0%
豊平区	0	1	6	2	2	1	2	0	14	31.8%
清田区	0	1	1	2	0	0	1	0	5	11.4%
南 区	0	0	2	2	1	1	2	0	8	18.2%
西 区	0	0	1	0	1	0	1	0	3	6.8%
手稲区	0	1	0	0	0	0	0	0	1	2.3%
札幌市計	0	4	16	6	6	2	9	0	43	97.7%
市 外	0	0	0	0	1	0	0	0	1	2.3%
合 計	0	4	16	6	7	2	9	0	44	100%
比 率	0.0%	9.1%	36.4%	13.6%	15.9%	4.5%	20.5%	0.0%	100%	

ウ 新患紹介元一覧

(単位：人)

区 分	紹 介 機 関 名	新患数	比 率
医療機関	天使病院	1	4.5%
	札幌市内病院	1	
	〈 小 計 〉	2	
子ども心身医療センター内	児童精神科	1	86.4%
	小児科	34	
	リハビリテーション係	0	
	ひまわり整肢園	3	
	〈 小 計 〉	38	
関係機関	札幌市外療育センター/通園施設	0	0.0%
	〈 小 計 〉	0	
そ の 他	親自身の判断	4	9.1%
	その他	0	
	〈 小 計 〉	4	
合 計		44	100%

子ども心身医療センター内からの紹介が大半を占めている。

エ 初診時診断名

(単位：件)

分類区分／名称	病 名	新 患	小 計	比 率
脳性まひ	脳性まひ	4	4	9.1%
遺伝性疾患	ウィリアムズ症候群	1	2	4.5%
	早老症	1		
先天異常	コフィン・シリス症候群	1	7	15.9%
	ソトス症候群	1		
	レット症候群	1		
	ファロー四徴症	1		
	神経線維症1型	1		
	先天性奇形症候群	1		
	アペール症候群	1		
染色体異常	ダウン症候群	6	8	18.2%
	その他染色体異常	2		
内分泌・代謝異常	ミトコンドリア病（Leigh脳症）	1	1	2.3%
	脊椎湾曲症	11	20	45.5%
	両股関節臼蓋形成不全	0		
	両下肢形成不全	6		
	歩行障害	1		
	頸椎不安定症	0		
	両外反扁平足	1		
	右母指屈曲拘縮	1		
発達遅滞・発達障がい	自閉症スペクトラム障害	1	2	4.5%
	神経発達症	1		
合 計		44	44	100%

(5) 眼科

ア 月別患者数

(単位：人)

眼科	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
初診	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	1
再診	0	2	0	3	0	0	0	1	0	0	0	0	6
合計	0	2	0	3	0	0	0	1	0	0	0	1	7
実患者数	0	2	0	3	0	0	0	1	0	0	0	1	7

2か月ごとの診察。学校健診・視力検査練習のケースが多い。

(6) 耳鼻咽喉科

ア 月別患者数

(単位：人)

耳鼻咽喉科	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
初診	1	0	0	0	1	0	0	1	0	0	0	0	3
再診	3	1	0	0	2	0	3	1	0	2	0	3	15
合計	4	1	0	0	3	0	3	2	0	2	0	3	18
実患者数	4	1	0	0	3	0	3	2	0	2	0	3	18

イ 聴力検査数

(単位：件)

COR	3	TG	0	プレイオーディオ	1
AG	0	DPOAE	0		

(7) リハビリテーション

ア リハビリテーション件数

(単位：件)

区 分	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
理学療法	332	303	316	343	330	317	340	293	315	312	280	334	3,815
作業療法	235	239	266	283	277	266	260	226	269	271	271	269	3,132
言語聴覚療法	112	96	100	95	107	92	108	98	115	114	104	113	1,254
合 計	679	638	682	721	714	675	708	617	699	697	655	716	8,201

イ リハビリテーション実数

(単位：人)

区 分	理学療法	作業療法	言語聴覚療法
年間人数	278	362	115
職員1人の担当数	77.2	90.5	38.3

ウ 診療科別リハビリテーション指示数

(単位：人)

区 分	小 児 科	整形外科	児童精神科	合 計
理学療法	71	2	0	73
作業療法	110	1	63	174
言語聴覚療法	34	0	1	35
合 計	215	3	64	282

エ 年齢別のリハビリテーション状況

(単位：人)

区 分	0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	6～ 11歳	12～ 14歳	15～ 17歳	18歳 ～	合計
理学療法のみ	4	42	33	29	23	4	30	23	18	0	206
作業療法のみ	0	0	4	33	43	58	119	26	3	0	286
言語聴覚療法のみ	0	0	1	4	5	14	27	0	1	0	52
理学+作業療法	0	1	1	4	7	2	27	6	11	0	59
理学+言語聴覚療法	1	5	8	5	5	1	5	1	3	0	34
作業+言語聴覚療法	0	0	0	0	7	9	8	0	0	0	24
理学+作業+言語聴覚療法	0	2	1	0	2	0	1	0	2	1	9
合 計	5	50	48	75	92	88	217	56	38	1	670

※年度途中のリハ終了児およびリハ種別変更児も含む。

オ 地域・医療連携

(ア) 実習受け入れ

(令和7年4月～令和8年3月)

月 日	学校名など	人数
11月25日～12月1日	札幌リハビリテーション専門学校 作業療法士科	1
1月26日～1月30日	札幌医科大学保健医療学部 理学療法学科第1学年	2
2月2日～2月8日	北海道大学医学部保健学科 理学療法学専攻2学年	2

(イ) リハビリテーション見学受け入れ：6件

(ウ) その他

通院児にかかる児童発達支援事業所や教育機関、医療機関等との情報共有及び引継ぎなど：82件

(8) 外来保育

ア 対象児童

当センター小児科を受診している0歳児から就学前の子どもを対象に集団保育、個別保育を行っている。

集団保育は、保育園、幼稚園、児童発達支援事業所など他の施設を利用する場合は終了となる。

イ 保育形態

「のびのび広場」「個別保育」の2形態で実施

	方 法	頻 度	人 数	時 間
のびのび広場	集団保育 (5グループ)	週1回	1グループ 親子2～4名	午前1時間40分
個別保育	個別保育	週1回程度	親子1組	1時間

ウ 「のびのび広場」実施状況

(単位：人)

年 齢 疾患名	0歳児	1歳児	2歳児	3歳児	4歳児	5歳児	合計
神経発達症	1	1	3	0	0	0	5
全般的発達遅滞	0	4	1	0	0	0	5
運動発達遅滞	2	3	0	0	0	0	5
合 計	3	8	4	0	0	0	15

※年度途中の終了児も含む。

エ 「個別保育」実施状況

(単位：人)

年 齢 疾患名	0歳児	1歳児	2歳児	3歳児	4歳児	5歳児	合計
神経発達症	2	1	0	3	1	1	8
脳性麻痺と神経発達症	0	0	0	0	1	0	1
染色体・遺伝子異常	0	1	0	0	0	0	1
全般的発達遅滞	1	5	0	0	0	0	6
運動発達遅滞	5	4	1	0	0	0	10
言語発達遅滞	0	2	0	0	0	0	2
デュシェンヌ型筋ジストロフィー	1	0	1	0	0	0	2
ピーターズ・プラス症候群	1	0	0	0	0	0	1
水頭症・運動発達遅滞	0	1	0	0	0	0	1
合 計	10	14	2	3	2	1	32

※年度途中の終了児および「のびのび広場」へ移行した児も含む。

(9) 心理

ア 心理治療

医師からの指示により、セラピスト(心理士)による心理治療を行っている。実施に際してはアセスメントをもとに、医師とセラピストが通院頻度や内容などを検討し開始している。

<年齢別患者数>

(単位：人)

区 分	心理治療					
	幼児	小学生	中学生	中卒以上	保護者	合計
4月	1	37	27	15	2	82
5月	0	30	28	17	0	75
6月	0	28	21	13	0	62
7月	0	46	19	14	0	79
8月	0	29	25	15	0	69
9月	0	40	25	14	0	79
10月	0	43	23	12	0	78
11月	0	42	23	13	0	78
12月	0	37	22	14	0	73
1月	0	35	19	11	0	65
2月	0	32	22	10	3	67
3月	0	40	22	12	0	74
合 計	1	439	276	160	5	881

<年齢別実人数>

(単位：人)

乳幼児	小学生	中学生	中卒以上	合計
0	42	19	11	72

発達障がい児の乳幼児の心理治療の場合、多くは母子同室の形態をとっている。心理治療では子どもの発達を支援するとともに、母子関係の不調和が生じやすい母子に対して、積極的な働きかけを行い、母子関係の結びつきを深めるとともに、とかくぎくしゃくしがちな母子関係の修復を図ること、達成感や楽しみをセラピストや保護者と共有すること、子どもを理解することの援助などを目的としている。

学齢期以降の、不適応行動や不登校、被虐待児などの子どもの心理治療の場合は、その子の課題、問題に対して焦点を当て、心理的アプローチを行っている。子どもの場合、内面の葛藤を言語化して表現することが難しい場合も多く、非言語的アプローチとしてプレイセラピー、箱庭療法、描画療法などを用いることもある。また、認知行動療法やトラウマに焦点を当てた心理治療なども行っている。

イ 心理検査

発達検査及び知能検査、人格検査、認知機能検査その他の心理検査などを組み合わせて実施している。児童精神科、小児科それぞれから医師の指示を受けて実施している。

令和7年度の検査実施人数は723件と増加し内訳は下のようになっている。

<検査数>年度後半に小児科からのオーダーが増えてきている。児童精神科は小学生が半数以上を占め、小児科は幼児が8割以上を占めている。

(単位：件)

実人数	児童精神科				小児科				合計
	幼児	小学生	中学生	中卒以上	幼児	小学生	中学生	中卒以上	
計	19	213	74	14	331	60	10	2	723
種別計	320				403				723

＜検査の内訳＞精神科は一人に対して、複数の検査を組み合わせるケースが多く実際の検査数は実人数の1.5倍近くになる。また読み書きに関する検査など、診療報酬に算定できないものも増えている。小児科は発達及び知能検査が主である。

(単位：件)

区 分		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
児 童 精 神 科	発達及び知能検査	17	11	22	32	21	22	28	26	28	29	23	28	287
	人格検査	5	4	10	7	12	9	6	10	15	13	12	13	116
	認知機能検査 その他の心理検査	6	3	5	0	2	2	3	1	4	0	1	3	30
	その他(診療報酬算定 できない心理検査)	4	5	6	2	0	4	4	4	8	4	4	5	50
	合 計	32	23	43	41	35	37	41	41	55	46	40	49	483
	実施件数(実人数)	21	15	25	35	23	25	28	28	34	31	25	30	320
小 児 科	発達及び知能検査	32	38	36	36	31	33	41	29	34	36	30	26	402
	人格検査	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	認知機能検査 その他の心理検査	1	0	0	0	0	0	0	0	1	1	0	0	3
	その他(診療報酬算定 できない心理検査)	0	0	3	0	0	1	1	0	1	0	0	1	7
	合 計	33	38	39	36	31	34	42	29	36	37	30	27	412
	実施件数(実人数)	32	38	37	36	31	33	40	29	34	37	30	26	403

区 分	主な検査の種類
発達及び知能検査	遠城寺式・乳幼児分析的発達検査、新版K式発達検査2020、WISC-IV知能検査、WISC-V知能検査、鈴木ビネー知能検査、Vineland適応行動尺度等
人格検査	バウムテスト、SCT、P-Fスタディ、ロールシャッハ・テスト、描画テスト等
認知機能検査・その他の心理検査	音読検査（特異的発達障害を対象にしたもの）、ペントン視覚記名検査、ペンダーゲシュタルトテスト、K-ABCⅡ、PARS-TR等
その他（診療報酬算定できない心理検査）	STRAW-R、ひらがな聴写テスト、感覚プロファイル、KIDS乳幼児発達スケール、算数障害のための症状評価のための課題、S-HTP、TSCC、AN-EGOGRAM等

ウ 親支援プログラム（ペアレント・プログラムおよびペアレント・トレーニング）

児童精神科の場合、子どもの治療だけでなく、その子どもを養育している保護者、親に対する支援も重要と考えている。これまで継続して行ってきた親支援プログラムであったが、感染症対策の一環として、集団を対象にした支援は休止している。ただしニーズの高いご家族に対しては、本来は集団で取り扱うものではあるが、各家庭を対象に個別的なペアレント・プログラムおよびペアレント・トレーニングを実施している。

エ 実習受け入れ

月 日	学校名など	人数
5月30日	北海道大学教育学部（見学実習）	6名
6月2日～13日	札幌学院大学大学院臨床心理学研究科	1名
6月23日～27日 7月28日～8月1日 9月1日～5日	放送大学大学院文化科学研究科	1名
6月30日～7月11日	札幌学院大学大学院臨床心理学研究科	1名
7月3日	北海道医療大学心理科学部（見学実習）	4名
7月8日	北星学園大学社会福祉学部（見学実習）	7名
7月14日～28日	北星学園大学大学院社会福祉学研究科	1名
8月1日～8月15日	北星学園大学大学院社会福祉学研究科	1名
7月31日	北海道大学教育学部（見学実習）	7名
8月27日	北翔大学教育文化学部（見学実習）	10名
8月28日	北翔大学教育文化学部（見学実習）	8名
8月29日	北翔大学教育文化学部（見学実習）	9名
9月8日	藤女子大学人間生活学部（見学実習）	5名
9月8日～22日	北海道大学大学院教育学院	1名
9月17日	藤女子大学人間生活学部（見学実習）	4名
9月22日～10月6日	北海道大学大学院教育学院	1名
10月7日～17日	北翔大学大学院人間福祉学研究科	1名
11月4日～10日	北海道教育大学大学院教育学研究科	1名

(10) その他

ア 臨床検査

（単位：件）

区 分		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
臨床検査	血液	279	445	327	455	358	349	440	291	369	308	278	535	4,434
	尿, その他	14	12	15	14	16	12	21	15	16	12	10	19	176
脳波検査		8	5	14	14	16	14	18	13	11	10	8	24	155
心電図検査		7	6	9	3	4	8	8	8	9	6	7	3	78

イ レントゲン

(単位：件)

区 分		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
X線 撮影	児童精神科	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	小児科	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	整形外科	91	73	82	77	76	55	85	53	69	26	39	70	796
	耳鼻咽喉科	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	合 計	91	73	82	77	76	55	85	53	69	26	39	70	796

2 発達医療センター

(1) 概要・診療体制

ア 概要

発達医療センターは、札幌市児童福祉総合センターの3階にある診療所で、小児科、整形外科の2科があり、原則18歳未満の子どもを対象に運動発達の遅れや身体の障がい疑われる子どもを早期に診断し、治療やリハビリテーション（理学療法・作業療法・言語聴覚療法）、家族支援などを行っている。平成27年度は、改修工事のため休診し、子ども心身医療センター内にて診療を行っていたが、平成28年度からは子ども心身医療センターとの2か所に機能を分割し再開した。

(ア) 小児科

運動発達の遅れや運動障がい疑われる子ども、不器用な子ども、ことばの発達に心配のある子どもなどを対象に診療を行っている。

(イ) 整形外科

運動障がいや姿勢に異常がある子どもを対象に診療を行っている。靴や車いす等の補装具に関する相談と処方も行っている。

(ウ) リハビリテーション

発達の遅れや心身に障がいのある子どもを対象に理学療法、作業療法、言語聴覚療法を行っている。

イ 診療体制（令和7年4月1日現在）

(ア) 小児科 医師数2名

(イ) 整形外科 医師数1名（非常勤医師・子ども心身医療センターと兼務）

ウ 診療件数

（単位：人）

区 分	小 児 科	整形外科	合 計
延べ患者数	3,357	407	3,764
新患者数	92	9	101

エ 月別新患者数

（単位：人）

区 分	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
小 児 科	12	6	16	8	12	8	6	6	2	3	7	6	92
整形外科	2	1	2	0	1	0	1	0	1	0	1	0	9
合 計	14	7	18	8	13	8	7	6	3	3	8	6	101

(2) 小児科

ア 月別患者数

（単位：人）

区 分	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
初 診	12	6	16	8	12	8	6	6	2	3	7	6	92
再 診	262	264	278	297	273	287	297	241	252	294	230	290	3,265
合 計	274	270	294	305	285	295	303	247	254	297	237	296	3,357
実患者数	141	137	145	145	148	151	145	136	130	156	129	151	1,714

イ 新患の居住区分及び年齢

(単位：人)

区分	0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	6～ 11歳	12歳 ～	合計	比 率
中 央 区	4	4	1	0	1	0	3	0	13	14.1%
北 区	6	10	1	1	0	1	2	0	21	22.8%
東 区	8	10	1	2	0	0	0	0	21	22.8%
白 石 区	11	4	1	0	0	0	1	0	17	18.5%
厚 別 区	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0%
豊 平 区	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0%
清 田 区	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0%
南 区	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0%
西 区	5	7	0	0	3	0	1	1	17	18.5%
手 稲 区	1	2	0	0	0	0	0	0	3	3.3%
札幌市計	35	37	4	3	4	1	7	1	92	100%
市 外	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0%
合 計	35	37	4	3	4	1	7	1	92	100%
比 率	38.0%	40.2%	4.3%	3.3%	4.3%	1.1%	7.6%	1.1%	100%	

ウ 新患紹介元一覧

(単位：人)

区 分	紹 介 機 関 名	新患数	比 率 (%)
札幌市保健センター	中央	7	67.4%
	北	17	
	東	17	
	白石	15	
	厚別	0	
	豊平	0	
	清田	0	
	南	0	
	西	3	
	手稲	3	
	〈 小 計 〉	62	
医療機関	市立札幌病院	7	19.6%
	北海道大学病院	3	
	NTT病院	3	
	札幌市内診療所（古田小児科、榆の会）	3	
	札幌医科大学付属病院	1	
	天使病院	1	
	〈 小 計 〉	18	
その他	親自身の判断	11	13.0%
	発達医療センター整形外科(松山医師)	1	
	〈 小 計 〉	12	
	合 計	92	100%

保健センターからの紹介患者が大半を占めている。

エ 初診時診断名

(単位：人)

分類区分／名称	病 名	新 患	小 計	比率
発達遅滞・発達障がい	運動発達遅滞	65	72	78.3%
	協調運動障がい	7		
聴覚言語障がい	構音障がい	8	8	8.7%
低出生体重	超低出生体重児	4	5	5.4%
	極低出生体重児	1		
脳障害・脳性疾患	脳性麻痺	1	4	4.3%
	左片麻痺	1		
	脳動静脈奇形	1		
	脳室周囲白質軟化症	1		
染色体異常	ダウン症候群	1	1	1.1%
代謝性疾患	ミトコンドリア病	1	1	1.1%
遺伝性疾患	ムコ多糖症Ⅱ型	1	1	1.1%
合計		92	92	100%

発達医療センターは主に運動発達の遅れや身体の障がい疑われる子どもを対象としているため「運動発達遅滞」の患者数が多い。

(3) 整形外科

ア 月別患者数

(単位：人)

区 分	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
初 診	2	1	2	0	1	0	1	0	1	0	1	0	9
再 診	34	42	31	35	28	38	39	30	37	23	26	35	398
合計	36	43	33	35	29	38	40	30	38	23	27	35	407
実患者数	31	38	31	31	26	34	36	27	31	22	24	30	361

イ 新患の居住区分及び年齢

(単位：人)

区 分	0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	6～11歳	12歳～	合計	比 率
中央区	0	0	1	0	1	0	0	0	2	22.2%
北 区	0	1	0	0	1	0	1	0	3	33.3%
東 区	0	0	1	0	0	0	0	0	1	11.1%
白石区	0	0	1	0	0	0	0	0	1	11.1%
厚別区	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0%
豊平区	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0%
清田区	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0%
南 区	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0%
西 区	0	0	0	0	0	0	1	0	1	11.1%
手稲区	0	0	1	0	0	0	0	0	1	11.1%
札幌市計	0	1	4	0	2	0	2	0	9	100%
市 外	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0%
合 計	0	1	4	0	2	0	2	0	9	100%
比 率	0%	11.1%	44.4%	0%	22.2%	0%	22.2%	0%	100%	

ウ 新患紹介元一覧

(単位：人)

区 分	紹 介 機 関 名	新患数	比 率
発達医療センター内	発達医療センター小児科	4	44.4%
	〈 小 計 〉	4	
関係機関	みかほ整肢園	3	33.3%
	〈 小 計 〉	3	
医療機関	NTT病院	1	22.2%
	天使病院	1	
	〈 小 計 〉	2	
合 計		9	100%

エ 初診時診断名

(単位：人)

分類区分／名称	病 名	新 患	小 計	比 率
脳性麻痺	脳性麻痺	3	3	33.3%
神経系疾患	てんかん	1	2	22.2%
	ウエスト症候群	1		
染色体異常	ダウン症候群	1	1	11.1%
発達遅滞・発達障がい	協調運動障害	1	1	11.1%
その他	成長痛	1	2	22.2%
	両股関節形成不全	1		
合 計		9	9	100%

(4) その他

ア 文書作成

福祉 手当 診断書	特児 診断書	身体障 がい者 手帳	産科医 療補償 制度	診療 情報 提供書	加配 診断書	学校関 連への 手紙	ディ 意見書	その他	合計
20	8	11	5	77	1	0	1	23	146

(5) リハビリテーション

ア リハビリテーション件数

(単位：件)

区 分	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
理学療法	212	228	219	252	229	232	239	197	203	228	193	227	2,659
作業療法	96	96	107	114	109	112	115	93	93	113	95	114	1,257
言語聴覚療法	41	37	42	48	44	40	45	42	46	49	45	53	532
合 計	349	361	368	414	382	384	399	332	342	390	333	394	4,448

イ リハビリテーション実数

(単位：人)

区 分	理学療法	作業療法	言語聴覚療法
年間人数	154	78	38
職員1人の担当数	42.8	48.8	19

ウ 診療科別リハビリテーション指示数

(単位：人)

区 分	小 児 科	整形外科	合 計
理学療法	15	0	15
作業療法	7	0	7
言語聴覚療法	8	0	8
合 計	30	0	30

エ 年齢別のリハビリテーション状況

(単位：人)

区 分	0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	6～ 11歳	12～ 14歳	15～ 17歳	18歳 ～	合計
理学療法のみ	0	8	3	6	1	2	20	16	14	4	74
作業療法のみ	0	0	0	0	0	0	6	1	0	0	7
言語聴覚療法のみ	0	0	0	0	3	4	5	1	0	0	13
理学+作業療法	0	0	1	1	1	1	27	5	13	7	56
理学+言語聴覚療法	0	0	2	1	1	1	3	1	1	0	10
作業+言語聴覚療法	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	1
理学+作業+言語聴覚療法	0	0	0	1	0	3	6	2	2	0	14
合 計	0	8	6	9	6	12	67	26	30	11	175

※年度途中のリハ終了児及びリハ種別変更児も含む。

オ 地域・医療連携

(ア) 実習受け入れ：0件

(イ) リハビリテーション見学受け入れ：12件

(ウ) その他

通院児にかかる児童発達支援事業所や教育機関、医療機関等との情報共有及び引継ぎなど：120件

(6) その他

ア レントゲン

(単位：件)

区 分	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
小児科	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
整形外科	15	17	17	18	15	16	19	12	19	11	13	13	185